

前橋支局 〒371-0026 前橋市大手町 3-7-1 電話 027-232-4311 Fax 232-2262
高崎支局 〒370-0831 高崎市あら町 206-9F 電話 027-322-2834 Fax 324-7553
太田支局 〒373-0033 太田市西本町 47-16 電話 0276-31-5400 Fax 31-5417
藤岡支局 〒375-0051 藤岡市本町 250-5 電話 0274-24-7330 Fax 24-7335
桐生通信部 44-1414 伊勢崎通信部 25-3150 渋川通信部 24-4311

購読、配達
読者会 027-251-1666 前橋 235-6600 前橋南 265-6280 新前橋 251-1077 高崎北 323-0522
高崎南 323-0458 安中 382-1811 沼田 23-0330 渋川 24-6318 藤岡 22-0624 富岡 62-0169
中之条 75-2322 新町 42-0268 前橋北部 283-7575 桐生 44-4311 伊勢崎 24-8555 太田 22-2323
館林 72-0667 新太田 52-4611 大間々 72-1226 大泉 62-3551 邑楽 88-0675 伊勢崎NT 63-5510

メールは maebashi@yomiuri.com へ

広告 前橋 255-2511 太田 46-6165 旅行 前橋 243-5201 折込 前橋 253-2304

大雪1年 再建・備えに力

ハウス全壊 ようやく収穫

県内に深刻な被害をもたらした昨年2月の大雪から、14日で1年になる。栽培ハウスが倒壊した農家、除雪作業に奔走した建設業者など、再び冬を迎えた関係者たちは、それぞれの教訓を踏まえて「備え」に万全を期している。

昨年2月の大雪 発達中の低気圧の影響で14日、県内各地で記録的な大雪に見舞われた。積雪は前橋市で73センチ、草津町で148センチと過去最高を記録。孤立集落が多数発生し、交通機関の乱れや停電も相次いだ。県が公表した検証報告書によると、死者8人、負傷者126人、一部損壊や浸水を含めた住宅の被害は計3673棟に上った。

「復旧時間がかかった」家の橋本正勝さん(47)が額に汗を浮かべながら、収穫作業に取り組んでいた。昨冬の大雪で、約6000平方メートルの栽培ハウスが全壊。建て替えや内装整備を始めて、再び苗を植え始めた。

のが昨年未で、ようやく1年ぶりの収穫にこぎ着けた。ハウスは夏に完成していたが、「暖房機のダクトを取り付けたり、肥料をまいたりと、完全復旧には時間がかかった」と振り返る。

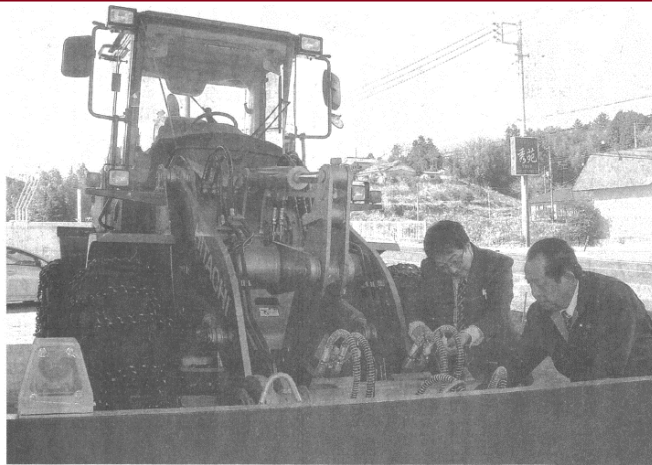
大雪による主な農作物被害
品目 金額
トマト 24億5236万円
キュウリ 16億4004万円
イチゴ 14億1306万円
ナス 10億4874万円
ハウレンソウ 8億2118万円
計 121億1600万円 (県調べ)

県のまとめによると、大雪による県内の農作物被害は計約12.1億円。このうちキュウリの被害額は約16億4000万円、ト

沢町の大野工業は、行政から除雪を指示される前に社員を本社の寮に宿泊させるなど、大雪時の新たな対応計画を立てている。
昨年の大雪時は、社員10人が自宅から数時間かけて駆けつけ、6台の重機を使って、前橋赤十字病院や大胡小学校などの公共機関の除雪を行った。昨年2月15日からほぼ2週間、除雪は続き、最初の1週間は夜遅くまで作業した。
経験を基に同社は、重機6台を市内の社有地に分散させて待機する対策をとったほか、本格的な除雪機も新たに1台購入した。
県建設業協会が実施した業者へのアンケートでは、昨冬の大雪で、除雪体制が不十分だったと答えた企業は62%。理由として「積雪量が多く対応能力を超えていた」との回答が最多だった。県によると、今冬の除雪車は国、県、市町村で776台と、業者への業務委託を増やしたこともあり、昨冬より221台増えた。



大雪被害からの復旧後、初の収穫を迎えたキュウリをもぎ取る橋本さん(前橋市泉沢町)



新規に購入した除雪機を手入れする大野社長(右)―前橋市横沢町で

迅速除雪へ寮で待機 業者計画

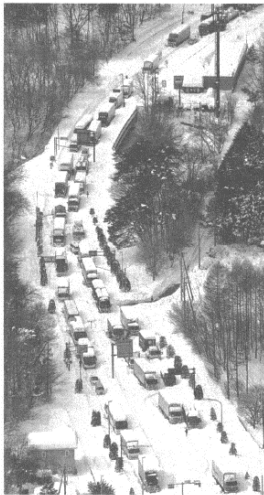
重機も分散配置
県や前橋市から除雪業務を委託されている前橋市横

「一先手先手」
大野社長(59)は「昨冬は孤立集落も出たり、経済や市民生活も長期止まってしまう。地域の人を守るためにも、先手先手で素早い行動を取っていきたい」と話している。

道路も対策着々

優先区間設定や
早めの通行止め

新除雪行動計画
記録的な大雪は道路渋滞や交通網の混乱を招いた。教訓を踏まえ、国や県などは「県道路除雪会議」を発足し、昨年11月に新たな除雪行動計画をまとめた。特に重視したのは「優先区間の設定」と「早めの通行止め」だ。緊急輸送道を中心に優先順位をつけ、道



大雪で立ち往生が続いた国道18号(水パイパス)2014年2月16日

路の幅が狭かったり、勾配がきつかったりする危険道路は、あらかじめ「早期通行規制区間(計308キロ)」などに分類しておく。雪捨て場の事前確保も進

は、気象台が「大雪警報」を発令し、24時間降雪量が平地部で30センチ以上、山地部で100センチ以上と予想されるケースとなる。県道路管理課は、「注意報の場合でも関係機関で情報共有し、道路凍結などに備える体制をとっている」としている。

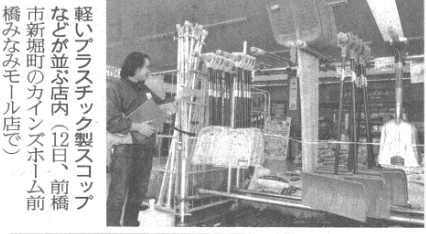
松井田妙義IC間が、民営化以降の影響としては最長となる106時間40分通行止めに。国道に流れた車など約250台が「確水パイパス」(安中市)付近で立ち往生するなど混乱した。同社は新たに除雪車4台、ロータリー車8台を購入。普段は山間地で使うロータリー車を、大雪のおそれがある場合は首都圏にも配備するようになった。また、除雪の妨げとなった立ち往生車を迅速に見つけて移動できるように、関東支社管内の監視カメラを35台増やし、135台とし、レッカー車も1台増やしている。

首都圏配備も

高速道路
高速道路を管理する「ネクスコ東日本」でも対策を進めている。昨年の大雪では、上信越自動車道富岡インターチェンジ(IC)―

幅広スコップ
まとめ買いも

雪対策商品
昨年2月の大雪を受けて、県内では大雪に備える商品の需要が高まった。ホームセンターの「カーンスホーム前橋みなみモ



軽いプラスチック製スコップなどが並ぶ店内(10日、前橋市新堀町のカーンスホーム前橋みなみモールド店)

例年11月頃から販売を始め、雪の予報が出た時や降った直後に買い求める客が多かったが、昨年は販売当初から売れ続けたという。幅広のスコップが人気で、2、3本まとめ買いする客も多いという。同店は「昨年の大雪で、1本では壊れてしまうことが多かったのではないかと話している。
昨年の大雪では、住宅のカーポートの屋根が崩落した例が多く見られた。製造・販売している「YKK AP」(東京都)によると、昨年4月以降、耐雪タイプのカーポートの注文が増えているという。